

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2014年3月10日

No.16

会社「定期昇給4号俸は完全実施するが、平成28年度の 鉄道事業黒字化のため、ベアは実施する考えにない」

～2014春闘 第4回交渉報告～

中央本部は本日10時より「第4回賃上げ交渉」を行い、会社は今春闘でのベア諸元を示したうえで現時点での考え方を以下の通り明らかにしました。

- ① 世間の春闘の動きは報道でも明らかにされているが、12～13日が集中回答となる。JR各社もまだ回答していない。
- ② 平成25年度鉄道事業収入は昨年11月から計画を上回り、今年に入っても続いている。現在は取りこぼしのないように全力を傾注している。関連事業収入は対計画1.1億円ショートする見込みだが計画に近づけるべく努力している。
- ③ 平成26年度の収入動向は不透明である。また関連事業は設備更新時期にあたる。現在、新中期経営計画を策定中だが、鉄道事業の収支改善を図り平成28年度で黒字を達成しないと、次はないとの決意で取り組んでいく。
- ④ 以上の事柄を検討した結果、定期昇給は完全実施するが、ベアは実施できる状況にない。諸要求やその他の事項は引き続き協議していく。
- ⑤ 前回交渉において指摘された、モチベーション向上策については個々の内容は新中期経営計画で検討したい。諸要求の実施も向上につながると考えるが、引き続き協議したい。

組合「計画は達成している。支払能力は十分あり会社の理由は 納得できない！この間の組合員の労苦に答え、満額回答で報いは！」

会社の誠意ない回答に対し、中央本部は以下の通り強く指摘し満額回答を迫りました。

(以下、主な議論)

組合：組合員は職場で大変な苦勞をしながら、輸送障害にも対応してきた。モチベーション向上策としてベアを今春闘で実施すべきである。

会社：モチベーション向上の手法は、ベアが全てではないと考える。

組合：平成25年度が黒字決算の見込みであり支払い能力はある。なぜ鉄道事業の赤字がベア実施できない理由なのかが理解できない。鉄道事業の黒字化は至上命題なのか。

会社：鉄道事業の黒字化は社内目標である。

(裏面に続く)

組合：ならば手法を変えれば良いのではないのか。一方でこの間経営陣は増え続けているが、どの位増えたのか。

会社：別途提示する。

組合：将来不安を感じた若手社員の退職が続いており、欠員も発生している。会社の将来展望を具体的に示すことは会社の責任である。

会社：社員には職業選択の自由がある。離職率はこれまでの傾向と変わっていると思ってない。欠員対策はその都度講じている。

組合：北海道へのサポート転勤を提案したのは貨物労組であり、手を打たなかったのは会社だ！欠員対策しているとは言えない。組合員は4月からの消費増税や保険料や公共料金値上げで、生活は一層苦しくなる。

会社：我が社は定期昇給を実施して賃金改善を図る。社員の生活が困窮していると思わない。世間にはベアを実施しない会社もある。

組合：実際に職場の現実を見に行くべきだ、若手は少ない給料で我慢している。定期昇給のみで賃金改善とはならない。ベア実施できない会社の理由は、我々にとっては理由にならない。収入拡大・鉄道事業の黒字化に向かっていくのなら、この間の苦勞に報いることとモチベーション向上を具体的にはかるべきである。このまま職場が疲弊した状態で新計画をがんばれと言われても、士気は高まらない！

会社：指摘は受け止めて社内で議論する。

組合員のみなさん！会社は職場で苦闘する組合員を足蹴にし、新中期計画での鉄道事業の黒字化にひた走ろうとしています。明日11日は全国統一行動日です。ベア獲得・諸要求実現に向けて、本部、地本、職場の連携を密にし、たたかいをつくりだしていきましょう。中央本部は、その最先頭で奮闘していく事を決意し第4回交渉報告とします。

以上